

スキンシップとコミュニケーションを
取り入れた生活支援

重症心身障がい病棟

座位対応の洗面台



西4病棟 56床
(短期入所4床を含む)

看護師 28人



西4病棟には、重度の知的障がいおよび重度の肢体不自由が重複した重度の障がい児（者）が生活しています。医学的管理で長期療養の〇〇しを支える専門性の高いケアや教育面の取り組みが行われています。安全性に考慮された3種類のベッド（低床、普通、サークル）が使い分けられ、共有スペースのプレイルームは座って過ごすことができるように柔らかい床材が使われています。

起床後は看護師がベッドサイドに出向き、身の回りのケアや服薬などを行います。食後には、午前と午後約1時間の療育活動が行われます。笑顔が並ぶにぎやかな時間です。保育士が用意したプログラムには季節の行

合併症のコントロールも必要になっていきますが、疾患の増悪時には廊下でつながる北海道医療センターで迅速に専門治療が受けられます。



プレイルーム

より豊かで充実した毎日を

療育指導室



児童指導員

保育士

療育指導室には、児童指導員、保育士といった専門職が配置され、主に療養介護サービス・医療型障がい児入所施設入院患者の福祉、教育、心理・保育の部門で関わっています。

普段の病棟生活をより楽しく過ごせるよう、外出やカーリング、カラオケなどの活動やクリスマス会、節分などの行事を企画し提供しているほか、年に1、2回は外部の方を招き、お楽しみ会やライブを実施しています。

重症心身障がい病棟での患者さんの日常活動の様子は療育指導室のスタッフが定期発行するニュースレター「あおぞらだより」でご家族にお伝えしています。

個々の病態を理解し 笑顔で関わる

事も盛り込まれ、スタッフとスキンシップやコミュニケーションを取りながら楽しい時間を過ごし、精神の安定を図ります。



病室には大きな窓があり、三角山や札幌の街並みなどを眺めることもでき、季節の変化を楽しめます。患者さんの身体の状態に合わせてさまざまなタイプのベッド、トイレや洗面台を用意しています。



健康管理と社会活動を支えるケアを提供

筋ジストロフィー病棟

西2病棟・西3病棟
116床
(短期入所4床を含む)

看護師 67人

生活の質に配慮しながら 療養生活を支える

筋ジストロフィー病棟は2階と3階に分かれ、それぞれ58床を有しています。長期療養のための生活の場として、専門的な医療ケアと身体機能の低下に応じた生活介助を提供しています。18歳までは病院併設の看護学校に通い、卒業後は作業療法室や理学療法室、交流ラウンジなどに出向き自分の時間を過ごします。

平日は朝の身支度と朝食を済ませたら、患者さんは人工呼吸器を着しながら電動車いすを操作し目的の場所へと向かいます。介助がなくてもエレベータを使うことで2階から3階へ、3階から1階への移動が各自可能です。車いすで別の階にある同級生の病室を訪ねるなど、休日の廊下は複数台の電動車いすの往来でにぎわいます。入院患者さんの8割が電動車いすでの自走が可能です。

筋ジストロフィーは少し前までは寝たきりが当たり前だった病気ですが、NIVと電動車いすの性能向上により、個々の活動性が向上しています。

看護師、児童指導員、保育士が、役割分担し、個々の病状に合わせて



自治会「ハーモニー」が発行するニュースレター「キャンパス」

たケアを行いながら、患者さんの自治会「ハーモニー」の活動も支援。当センターで開催される講演会やライブ、クイズ大会なども、患者さんが組織する「レクリエーションを考える会」の企画によって定期的に開催されています。こうした日々の活動の様子は、自治会の広報部長・桑原徹さんらが編集する機関誌「キャンパス」に掲載しています。



交流ラウンジなどで行われる患者さん主体の活動もサポートしています。



病室にはテレビモニターの位置や高さを調整できる可動式アームが設置されています。パソコンやゲームなどの操作は、患者さんの手の機能に合った特殊なスイッチを使用しています。

